

## 週日の説教

金 大烈 神父 2010年6月8日(火)

### 《あなたがたは地の塩、世の光》

先週の日曜日は、子ども達の初聖体が行われた素晴らしい主日でした。ほとんどの信者の皆様がいろいろ心を配ってくださったから、あのように素晴らしい一日が可能になったのだと思います。感謝をします。

今日の福音(マタイ 5・13-16)を読んで思い出したことが一つあります。私は、求道者の集まりに参加する時、必ず最初に「どのような気持ちで、どのようなことがきっかけとなって、ここへ来られたのでしょうか。」という質問をします。今日の福音を読んで、この質問に答えてくれた1人の奥さんの話を思い出しました。

ある日その奥さんは、家の掃除をしていて、雑巾をすすいだ水を何気なく門の外へまき散らしました。その途端、家の前を1人の老紳士が通りかかり、汚れた水が彼にかかってしまいました。奥さんはどうしたらよいか分からず、顔が真っ白になりました。しかし老紳士は、「私が通る様子を見ればよかったのに、突然家の前へ出てきたからいけなかったのです。」という予想もしない反応を見せると、笑顔で去って行きました。彼女は、「これはどういうことだろう。」と思いながらぼんやり去って行く彼の後姿を眺めました。それから「おかしい」と気づき、その老紳士を追いかけました。追いかけてみると、彼が入ったのはカトリック教会でした。そのようなことがあって、「あの老紳士はどういう人なのか」と気になり、彼女は初めて教会に関心を持ちました。

韓国では普通、自分から教会に来る人はほとんどいません。誰かに連れられて、誰かに手をとられて、いわゆる宣教の雰囲気の中で教会に来る人がほとんどです。しかしこの奥さんの場合は、自分から足を運び、「どうすれば信者になれるのか」といろいろ聞いて、求道者の勉強の教室に入りました。偶然かどうかわかりませんが、その奥さんからその話を聞く前に読まれた聖書の箇所が今日の福音の箇所でした。彼女は、「自分でも不思議に思うのですが、聖書の内容は全然分からないのに、今日読まれた聖書と私が教会に来ることになったこととは、何かつながりがあるような気がするのです。」と話していました。十年以上経っているのにも関わらず、今もその話をしっかり覚えています。まさに、今日の福音の内容どおりの話ではないでしょうか。

私たちがよく使う言葉に「・・・らしい」という言葉がありますね。たとえば、「人間らしい」、「男らしい」、「女らしい」、「学生らしい」などと使います。これは、自分のもともとの姿にふさわしいかどうか、を表す言葉ですね。

今日の福音は「塩が塩気、塩味を失ったら、捨てられ踏まれる」という話でした。しかし『踏まれる』ことがこの福音のポイントではありません。イエス様がおっしゃった話のポイントは、「誰でもみんな、神様からいただいた賜物(塩)を持っている。その賜物(塩)を使わなければ、塩の味を失

ったのと同じことになる。」ということです。信者が信者らしくなるためには何が必要でしょうか。簡単明瞭に申し上げますと、「イエス様のみ言葉について行くこと」が必要です。しかし、口では「ついて行きます。ついて行きます。」「信じます。信じます。」と言いながら、実際の行いは逆になってしまう場合が多いのが、私を始め全ての信者の姿ではないでしょうか。

皆様、悪いものを取り除くことより、よいものを生かすことが福音です。よいものを生かすことができれば、悪いものは自然になくなります。逆に悪いものを無くそうとすればよいものさえ無くしてしまう場合も結構あります。なぜなら、悪いものを無くすために私たちが使う方法は、いつも悪い方法だからです。悪いものを無くそうとして、中にある本当にきれいなものさえ汚してしまう、無くしてしまう場合が、結構あります。皆様、私たちは素晴らしいものを、それを見つけた自分でさえ気がつかなかったような素晴らしいものを賜物としていただいています。それを外に出さなければなりません。外に出すためには何が必要でしょうか。自分のことを客観的にはっきり見ようとする心の戦いが必要です。世の中で一番つらい仕事は自分の中に入ることだと思います。私たちは、自分の中に入りたくないのです。なぜならば予想以上に汚いからです。私もそうです。しかし自分の中に入らなければ、神様のみ言葉は絶対に生きて私たちに伝えられないのです。

皆様、「自分らしい」生き方をするのが、一番幸せなことかもしれません。そのために、悪いものを無くそうとするより、積極的に自分の中にあるよいものを見つけようとしてください。“汚くて自分の中に入りたくない”と思う時に、もしピカピカ輝いているよいものが見つけられたら、それは大成功です。その素晴らしいものに全てをかけて生きる意味を探せます。

皆様、絶対がっかりしないでください。特に自分に対してがっかりしないでください。みんなそういう癖を持っています。見せたくないところを持っています。それによって、人を評価するのも愚かなことです。なぜならば、評価する人もそのような見せたくないものに囲まれているからです。

皆様、今日の福音をよく考えてみましょう。もし私たちがよいものを出すことができれば薫がするでしょう。キリストの薫がするでしょう。そうしたら、自然に宣教の実が実ると思います。今年は宣教の年として、一人一人がみんな覚悟して頑張りましょう、とお願いしましたね。そのために、何よりも必要な準備はこういう心ではないかと思います。皆様が幸せになったら周りも幸せになります。まず幸せになってください。私たちには、その幸せの意味が分かります。それは「信仰者としてキリストが教えてくださった世界に入ること」しかないと思います。